

# 病院看護師実地研修報告

～その人らしさを支えるとは～

JA北海道厚生連 札幌厚生病院

安藤 光世

# 「自己紹介」



- 札幌厚生病院の特徴

急性期病院、地域がん診療連携拠点病院  
保健、予防から終末期までの一貫した医療の提供

- 退院支援看護師としての役割

入院時から退院後を見据えた早期の介入  
丁寧な意思決定支援や切れ目のない看護の提供

- 訪問看護への依頼内容

癌による症状コントロールが必要な患者  
点滴管理、在宅酸素、ドレーン管理等の医療処置が必要な患者

# 「訪問看護師の役割とは？」

病気を抱えながら住み慣れた地域や自宅で  
その人らしい生活を続けていく患者を支えること

その人らしさ？



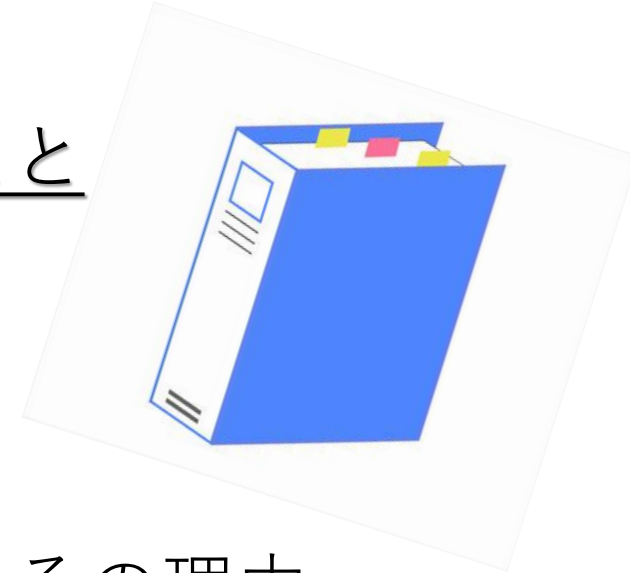
生活を支える？

# 「病院との違いに驚いた。」

患者情報のファイルに個別性が多くかかれていたこと  
例)

- ・ 自宅に訪問してから退室するまでの手順
- ・ 言葉づかいの統一
- ・ ベッドサイドにいつもあるキティちゃんの毛布とその理由

利用者とその家族がリラックスした表情で  
過ごされていたこと



## 「心にとまった言葉」

病院には規則がある。

パンツ1枚で寝たいのに病院では許されない。  
トイレに行きたいのにオムツをはけと言われる。

決まった時間に食事が出て、  
お腹が空いていなくても食べなければいけない。  
それが家にいると自由がある。

# 「やりたいことを叶える利用者たち」

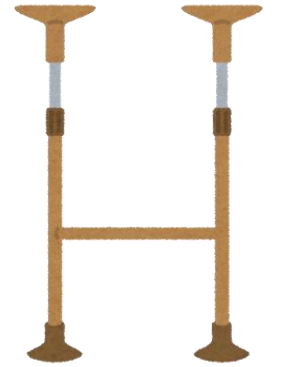
Aさん ALS 日常生活自立度C

「オムツは嫌だ。トイレで排泄をしたい。」  
ヘルパーの力を借りて  
毎日2時間ポータブルトイレに座っていた。



Bさん 小児脳性麻痺 日常生活自立度B

「家族の写真を眺めレコードを聴き好き勝手に生きたい。」  
1日数回のヘルパーの訪問と福祉用具での環境調整で  
安全に独居の生活を送られていた。



Cさん ウロストミーの管理が必要 妻がきれい好き  
装具交換の際、尿を破棄し、脱臭袋に入れて破棄していた。



「その人らしさを大切にすること

その療養方法は安全？  
患者さんの不利益にならない？



ということ以前に、まずは…

# 「実習での学び」

「その人が大切にしているものが、なぜ大切なのか？」  
その背景に関心をもち、その人の体験世界を理解すること。

そして、生活スタイルやとりまく環境ひとつひとつに  
意味があることを知り、その意味の価値を共有すること。

希望する療養方法がどうすればかなうのか検討を繰り返し  
かたちにしていく作業に訪問看護の意義がある。

# 「2025年問題」

高齢になり  
慢性疾患の増加

超高齢化社会で  
医療・介護のニーズが  
高まる

様々な疾患が複合的に  
発生しやすくなる

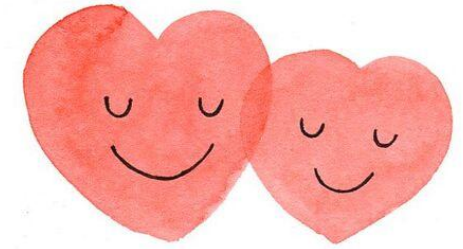
急性期治療以外の理由で入院  
が延長

医療・介護システムの  
逼迫

病気は治すだけでなく  
付き合っていく必要



# 「看護実践に活かす」



①患者の病状を、既往歴も含めて複合的にアセスメントする  
➔病状が生活にどう影響を及ぼすかを知る

②家に帰りたいという思いに寄り添い、どう過ごしたいのか、気持ちの揺らぎ、価値観、大切にしている思いを理解する  
➔患者が大切にしている意味の価値を共有する

③得た情報を電話のやりとりや退院前カンファレンスを活用し  
できるだけ具体的に訪問看護等支援者と共有する  
➔患者の思いを叶えるための方法を考える

## 「実習後の実践①」

< 事例 >

Dさん 60代女性 S状結腸癌 肝転移 骨転移

既往：脳出血（右半身の痺れ）左大腿骨骨折疑い（股関節痛）

ADL：車いす、移乗は見守りか軽介助

必要なケア：足の処置、シャワー介助、内服管理 等

本人の思い：「自宅に帰りたい気持ちと介助が必要なままでの退院に不安な気持ち、退院後の自分をイメージできない。」

家族の思い：「帰ってきてほしいが訪問看護を利用しどう生活できるかイメージができない。できることは協力したい。」

介護保険：要介護2 CMがいて福祉用具レンタルはすでに利用済

今回訪問看護希望あり新規で調整(癌末期で医療保険)

## 「実習後の実践②」

### 1) 「退院への不安に寄り添う」

- ・不安の理由をさぐる
- ・Dさんの気持ちの変化と退院調整の速度をあわせる
- ・Dさんや家族が訪問看護を具体的にイメージできるよう退院後のスケジュールの案を確認し情報提供

### 2) Dさんの「やりたいこと」を支援者で支える

- ・安全ではなく不利益になると最初から決めつけず、実現するための方法がないか支援者で繰り返し検討する

# 謝辞

本実習においてご協力ご指導いただきました  
北海道訪問看護ステーションサポートセンター、  
ならびに札幌東訪問看護ステーションの皆様  
深く感謝申し上げます。